

災害時要援護者対策（避難支援研修会）開催

岐阜県難病医療連絡協議会事務局(岐阜大学病院内)

美濃、中津川、大垣に続いて、第4回避難支援研修会を飛騨地区で平成26年6月1日（日）午後1時から2時間にわたり開催しました。幸いにも晴天に恵まれ、初夏の風が気持ちいい場所で開催できました。

研修会内容は☆岐阜県に迫る地震とその対策☆難病療養者の避難支援について☆緊急医療手帳について☆災害に備えた市町村の取組（要援護者登録）☆在宅用医療機器の電源と災害準備について☆実技訓練①担架搬送の仕方など②移乗動作介助③外部バッテリーの利用について④人工呼吸器について⑤補助呼吸（アンビューバックの使用）⑥吸引について⑦力に頼らない介護法☆実際の災害時準備物品確認について行いました。

研修会は、日本ALS協会岐阜県支部をはじめ、下呂市医師会、益田生活サポートセンター、下呂市（医療対策課、社会福祉課、消防本部、防災情報課、馬瀬振興事務所）、下呂市消防団馬瀬方面隊、下呂市障がい者生活相談センター、岐阜県（健康福祉政策課、保健医療課、飛騨保健所）、岐阜県難病団体連絡協議会と沢山の方々の協力のもと開催することができました。

研修会に参加し実技を体験いただいた34名の地域住民の方々からも、全般を通して「研修会は参考になった」と8割強から支援を得、各ブースに分かれた実技は特に好評を得る結果となりました。

災害時には公助・共助・自助が必要です。今回は、「地域力」の強さを感じることができ、“共助”のありがたさを教えていただいた研修会となりました。多くの学びをありがとうございました。



実技（移乗介助）



実技（吸引）



実技（人工呼吸器）



実技（補助呼吸）



実技（担架搬送）



実技（補助呼吸）

重病者避難支援学ぶ

馬瀬 住民や市職員が研修

災害時に一人では避難できない重病者らの支援のあり方を学ぶ、避難支援研修会が、下呂市馬瀬西村の西村集会所で開かれた。

西村地区に人工呼吸器で生活する住民がいることから、飛騨地域では初めて開かれた。



住民三十人ほどや下呂市職員などが出席した。

研修会では難病の特性や、近年の災害、災害時に準備しておいた方がよい物品などを説明。災害時に重病者が使う医療機器の電源として、自動車のバッテリーが役立つことが紹介された。

参加者は人形などを使って、手動の人工呼吸器の使い方や患者の運搬、重病者の体内にたまったたんの取り出し方などを体験した。

手動の人工呼吸器を操作する住民↓下呂市馬瀬西村の西村集会所で